

相談支援係  
072-941-3365

ICT教育推進係  
072-943-5785

研究研修・幼児教育係  
072-943-5784

教育センター  
Web pageは  
こちらから



## 幼児教育研修＜特別支援コーディネーター研修（就学前）①＞

令和8年5月8日（金）幼児教育研修＜特別支援コーディネーター研修（就学前）①＞を午後3時～午後5時に八尾水道センター4階大会議室で行いました。テーマ①は「就学前施設における特別支援教育コーディネーターの役割について」で講師は本センター 白木 貴代 所長補佐です。テーマ②は「気になる子どものスムーズな就学に向けて」で講師は本センター 吉原 祐輔 指導主事です。

[研修使用資料](#) ↓

### ③ 支援方法 に関する 検討・助言

- ・サポート児の支援の方法を一緒に考えている
- ・サポート児を含めたクラス集団としての在り方の相談役をしている
- ・「インクルーシブ教育・保育」について、園内で共有している

＜幼児教育の基本を大切に！＞

・一人ひとりの発達の特長（その子らしい見方、考え方、感じ方、かかわり方など）を理解し、その特長やその子が抱えている発達の課題（※）に応じた指導をすることは、幼児教育の基本

※発達の課題…その時期の多くの幼児が示す発達の姿に合わせて設定されている課題のことでなく、一人ひとりの発達の姿を見つめることにより見出されるそれぞれの課題。

・集団生活の中で、互いに影響し合うことを通して、一人ひとりの発達が促されていくことから、障害のあるなしではなく、一人ひとりの発達の特長を生かした集団を作り出すことが大切

・一人ひとりの興味・関心、思いや願いを大切に遊びが展開されるよう援助していくことが重要

＜多様性の包摂につながる＞

出典：幼児教育WG資料2『特別な配慮を必要とする乳幼児への指導・支援の充実について』

## インクルーシブ（育ちあう）な教育・保育

仲間とともに生活する喜びが日々感じられる保育

### ＜就学相談の流れ＞



#### ①お電話で申し込み

（八尾市教育センター：072-941-3365）

後日、担当からお電話させていただき、日程調整をします。

#### ②【来所1回目】

予約した日に教育センターにお越しいただき面接をします。

お子様の様子を把握するために、発達検査や保護者への聞き取りを行います。

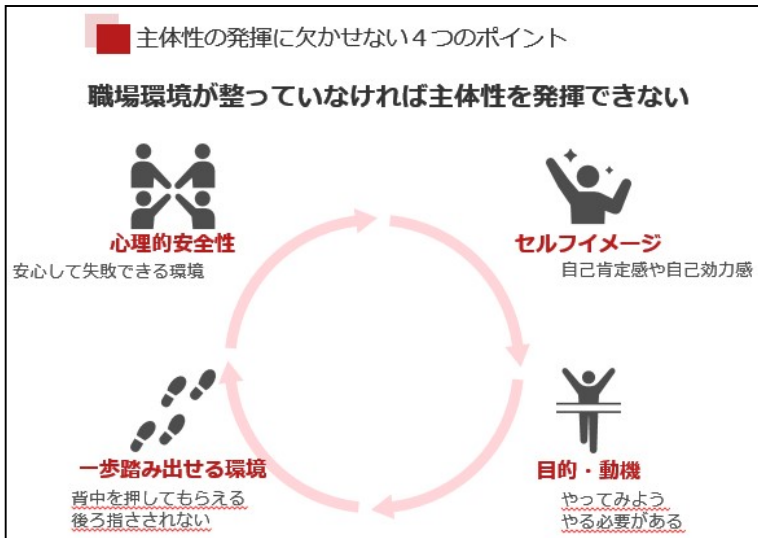
電話申し込みの締め切りは、8月のお盆前です。

### <受講者感想>

- ・4月から特別支援教育コーディネーターになり、十分な経験があるわけではなく、不安を抱えながらやってきたが、今回の研修で何からやっていけばよいのか、方向性が見えてきた気がする。
- ・保護者の理解が得られない限り、子どもたちの過ごしやすい生活にはならないと思うので、保護者との信頼関係を大切にしながら丁寧に話を進めていきたいと思った。
- ・就学相談の進め方についてわからないことが多かったが、今日の研修でよくわかったので、研修資料を見せながら他の職員にも説明しようと思う。

## 幼児教育研修<管理職ステージ研修>

研修使用資料 ↓



令和8年5月25日(月)午後3時～午後5時に幼児教育研修<管理職ステージ研修>を八尾水道センター4階大会議室で行いました。研修テーマは「主体性の発揮につながる人材育成」で、講師は社会福祉法人檸檬会 青木一永 副理事長です。

### <受講者感想>

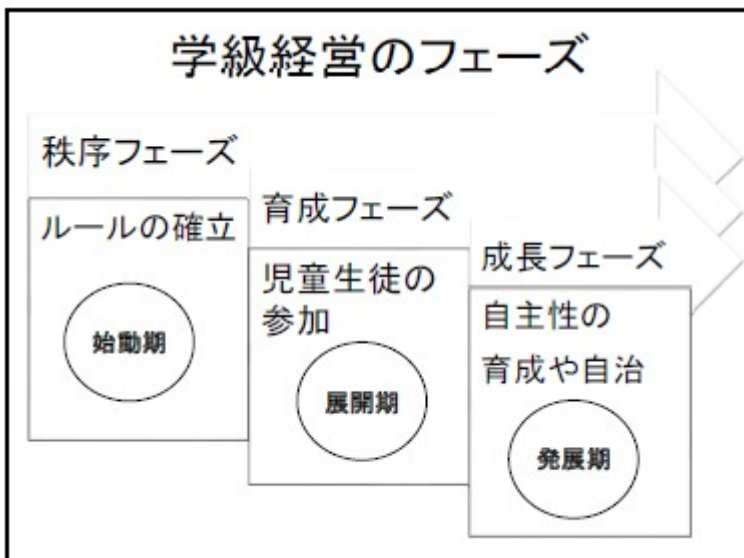
- ・コンパクトな会議でも、グラドルをつくることで充実した話し合いができるという事が分かった。
- ・「ぬるい職場ではなく、厳しい内容もお互いに言い合える」そんな職場に

していきたい。そのためには、互いを知り、認め合うという事が前提になると思った。

- ・管理職になって、まだまだ分からないことも多いが、分からないことを聞くことができる職場環境をつくっていく必要があると気づいた。園の保育者に寄り添い、声をかけていくことで、よりよい職場環境が築けると思うので、積極的に実践していきたい。

## 2年次研修(令和7年度初任者 第20回)

↓ 研修使用資料



令和8年5月21日(木)午後3時～午後5時に2年次研修(令和7年度初任者 第20回)を行いました。講師は桃山学院大学 松久 眞実 教授で研修テーマは「人権について考える4～児童生徒理解を深めるために3～『1年間を通した学級経営の道筋』」です。

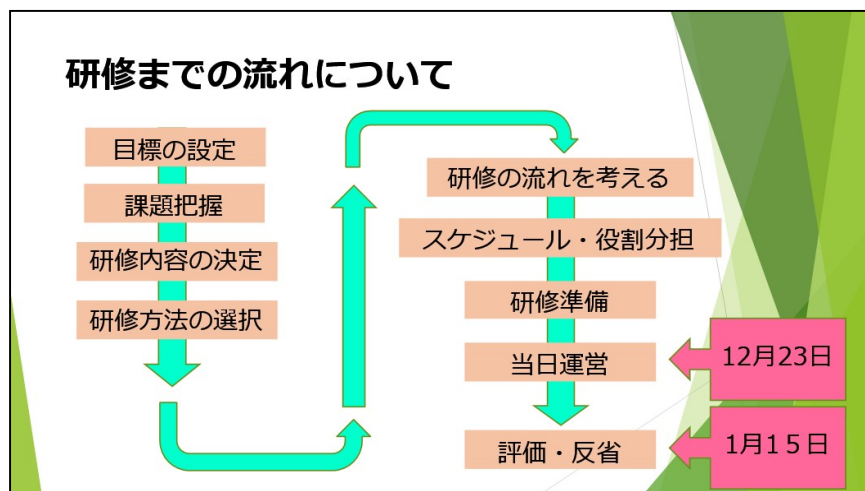
### <受講者感想>

- ・今回の研修を受けて、学級経営において「安心できる環境づくり」がとても大切であると改めて感じた。特に、「静寂の時間を増やす」「教師の言葉を減らす」「叱る基準を明確にする」という内容は、現在の自分の学級経営を振り返る上で大変参考になった。

- ・授業を進める中で、落ち着いて学習に向かう時間をつくることの大切さを改めて実感した。1年めのときにも教えていただいていたことなのに、4月から毎日めまぐるしく過ごしているうちに、その大事さが頭の中からすっぽり抜けてしまっていたように感じた。研修でその話を聞いてから意識してみると、「落ち着いて学習に向かう時間って、こういうことか」と納得する瞬間があった。その時間をこれまで以上に大切にしようと思えた。
- ・今年度はなかなか思った通りにいかないことも多く、本研修内容ですごく実践できそうなことがたくさん聞けたように思う。厳しく指導することが全てじゃない。このことを本研修で講義を聞き、改めて感じた。子どもたちを褒めるような些細な言葉掛けの積み重ねがクラスを良き方向に向かせていける秘訣だと思うため、まずこの研修後の金曜日は褒めることに徹する、ポジティブな声かけを増やす、というところを取り組んでみたい。

## 幼児教育アドバイザー フォローアップ研修①

↓ 研修使用資料



令和8年6月3日（水）午後3時～午後5時に幼児教育アドバイザー フォローアップ研修①を行いました。講師は本センター 白木 貴代 所長補佐で、研修テーマは「研修の企画・立案について」です。

＜受講者感想＞

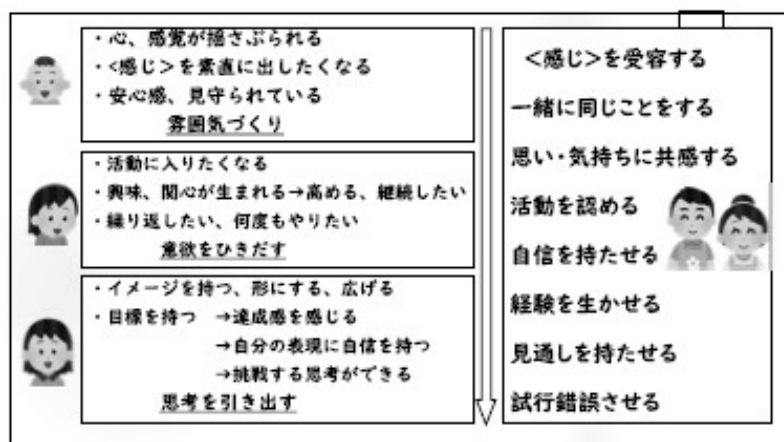
- ・研修内容を考えていくにあたり、“どんなことをねらうのか”を明確にする難しさを痛感した。参加者の立場で考えること、ニーズ、何を学んで

もらいたいのかイメージすることを実際に経験し、この研修で段階的に考える思考力を高めていきたい。

- ・園の課題から企画研修を考えることにより、自分の思いや考えを整理することができた。研修参加者のためでもあるが、自分にとって最大の学びにつながるよう、積極的に意見を伝えたりしていきたい。
- ・この研修が“参加してよかった”“また語り合いたい”となるよう、自分たちも話をすることを楽しみにしながら進めていきたい。

## 幼児教育研修＜ミドルステージ研修①＞

↓ 研修使用資料



令和8年6月5日（金）午後3時～午後5時に幼児教育研修＜ミドルステージ研修①＞を八尾水道センター4階大会議室で行いました。講師は大阪常磐会大学短期大学部 平野 真紀 教授で、研修テーマは「『またしたい！』につながる造形活動と保育者のかかわりって？～発達を踏まえて、自分らしい感性と主体性を育てる～」です。

### <受講者感想>

- 保育者が一緒に楽しむこと、発達を見通した素材や材料の用意、どこまで準備するかなど、ねらいに合わせた教材の準備の大切さを実感した。
- 自分自身が、描くこと作ることに苦手意識があり、少しでも知識や技術を身につけたいと思い、研修に参加した。実技中、講師から「なるほど」「へー!」「面白い!!」と肯定的な言葉をかけてくださり、子どもたちってこんな気持ちなんだ、と実感できた。
- 造形活動で、基礎的環境を整え、一緒にワクワクできるようなものを取り入れ、考えていけるようにしていきたい。

↓当日の作品↓



## 教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は5月から6月に配架した雑誌の誌名と目次の一部と書籍の内容を紹介いたします。

「道徳教育」（明治図書）6月号

- 特集 道徳 発問力アップ大全 ー有名教材発問リスト付ー

「初等教育資料」（文部科学省編集・東洋館出版社）6月号

- 特集 改定に向けた検討事項と、今、大切にしたい取組③ 理科 音楽 図画工作

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）6月号

- ・特集 学習指導要領改訂に向けて  
～各教科等別ワーキンググループにおける審議状況③～

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）6月号

- ・特集 自立活動が「好き」を育み「得意」を伸ばす

特集の「論説」で宇都宮大学 齋藤 大地 准教授が「自立活動のこれまでとこれから」と題して寄稿されています。「はじめに」では、自立活動は「特別支援教育の中核をなす領域」であるとし、特別支援学級では「学習指導要領に示す自立活動を取り入れる」こと、通級指導教室では「その内容を参考として指導を行う」ことを述べられています。次期指導要領改訂においても自立活動の充実が課題となっているようです。

#### 一「養護・訓練」から「自立活動」へ

平成11年の学習指導要領から「自立活動」という名称が用いられるようになり、平成21年には目標の一部が「障害に基づく種々の困難」を改善・克服する、から「障害による学習上又は生活上の困難」の改善・克服に改められました。

#### 二「自立活動の現状と課題」

次期学習指導要領の改訂に向けた教育課程部会特別支援教育ワーキンググループ（特支WG）では「個々の実態把握が十分でないことから、適切な指導目標や指導内容の設定に至っていないため、個々の児童生徒の障害の状態等を十分に配慮せずに指導が行われている」との指摘があるそうです。特別支援学校では「自立活動の時間における指導を要しつつ、その成果を各教科等の指導に生かし、また各教科等の学習状況についても自立活動で取り上げ実態把握につなげるという往還的な構造」が求められているとのこと。また、特別支援学級においては「個別の指導計画などを学級間で共有し、自立活動の視点が通常の学級の授業や学校生活全体の中で活かされること」が求められています。通級学級について、特支WGで「自立活動を取り入れることを明確にし、教科との関連をより密接にする」という方向が示されているそうです。齋藤氏は「通級で学んだことが通常の学級や日常生活に般化してこそ、自立活動の意義は実現する」と述べていられます。

#### 三「好みを育み、得意を伸ばす自立活動」

特別支援学校の小学部・中学部・学習指導要領において、自立活動について「その子らしく学び、生きる力を育てる学び」として示されています。つまり「苦手なことを反復してできるようにする時間」ではないという事です。以下点（ア～カ）について解説されていますが、いずれも、工夫を凝らして成功体験を積み上げ、主体的に学び意欲を伸ばしていこうというものです。

最後に、今後の方向性として、「本人が何を困難だと感じているのか」という事を丁寧に見取って、「児童生徒が自分の強みや得意な学び方を知り、それを手掛かりに困難と向き合い、必要な支援を活用したり環境を調整したりしながら、自分らしく学び、生きる力を育てる」ことの重要性を述べておられます。

※文字表記は齋藤氏のまま

（葭仲）

教育科学「国語教育」（明治図書）6月号

- ・特集 NG指導全書—あなたはどこで間違えたのか

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集・東洋館出版社）6月号

- ・第1特集 「数と計算」における核となる概念を育む数学的活動
- ・第2特集 子どもから価値ある問いを引き出す算数の授業づくり

教育科学「社会科教育」（明治図書）6月号

- ・特集 視点や方法をみにつける！ 見方・考え方を鍛える 課題解決学習